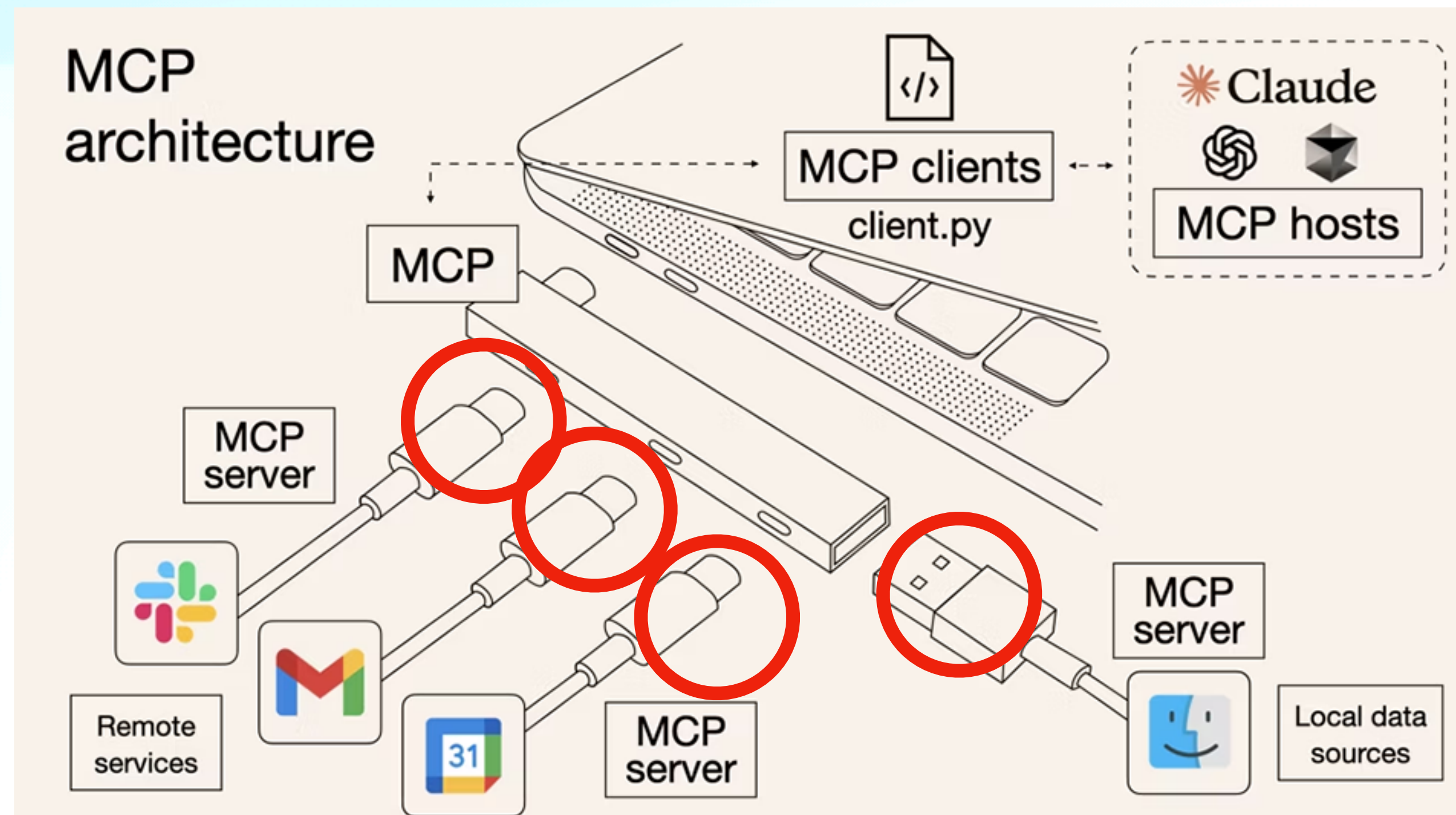


補足資料：MCPの現在地

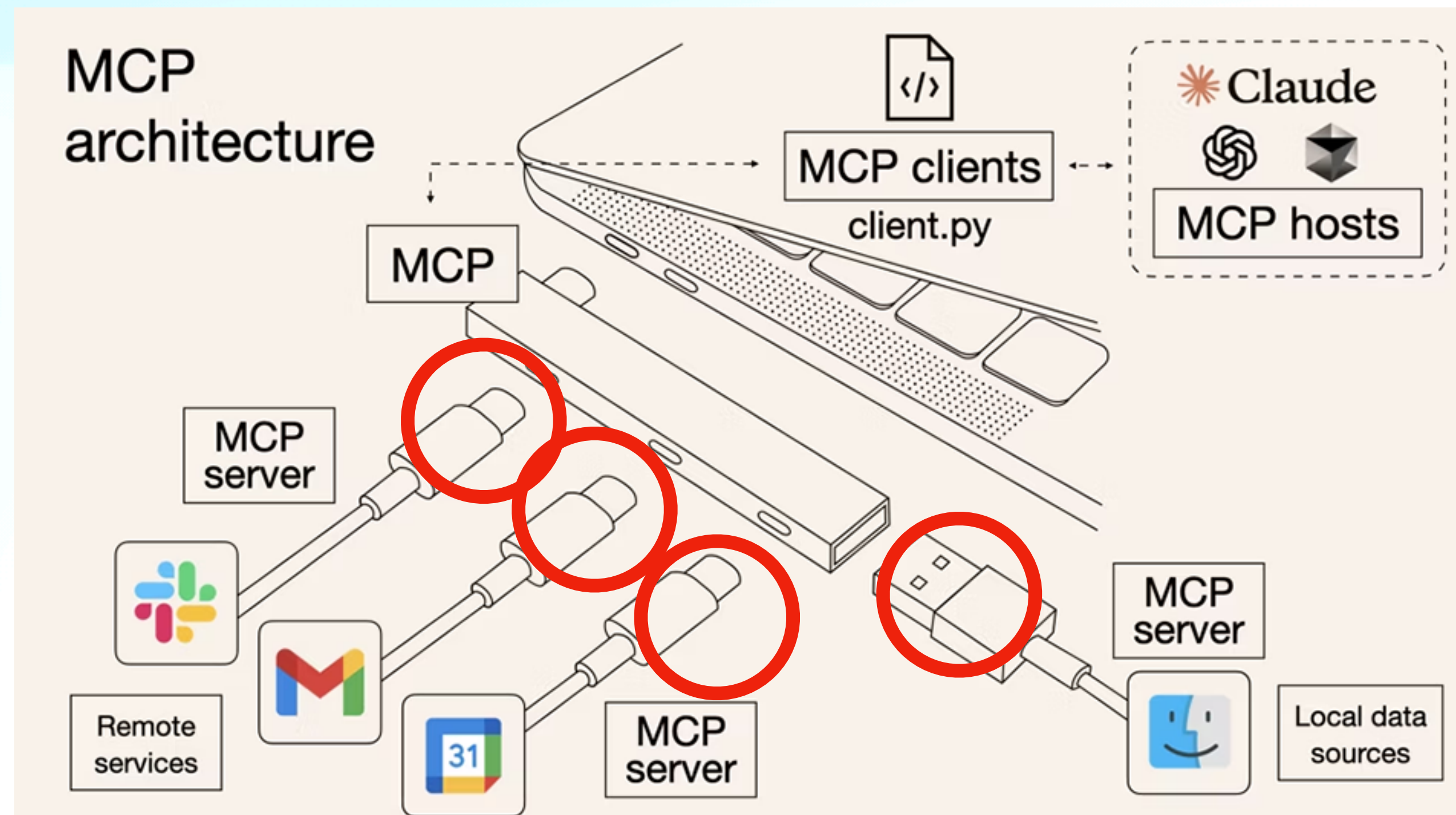
疑問

- MCPが「共通規格」であることを、USB-Cみたいなもんじゃんと例えた
- サービス側からすれば、「USB-Cケーブル」に対応する「MCPサーバ」を1つ作ればいいので楽。



疑問

- しかしこれは、ユーザにとっては嬉しい のか？
- 下図でいうと、MCP hostがエージェントで、**ユーザはそれをいろいろ使い分けながら、それぞれをMCPサーバに接続することになる。**



ユーザ

サービス



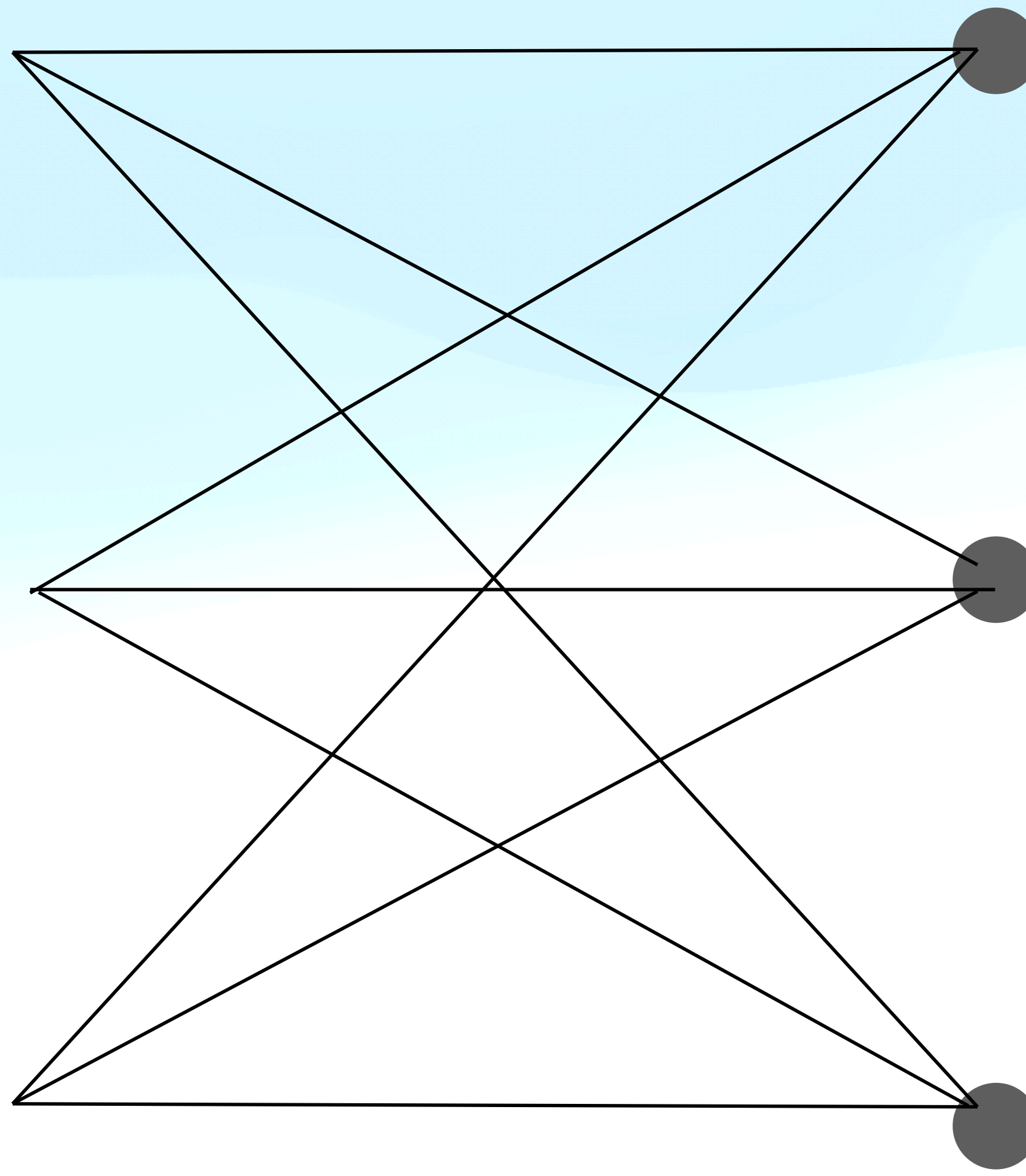
ChatGPT



Claude



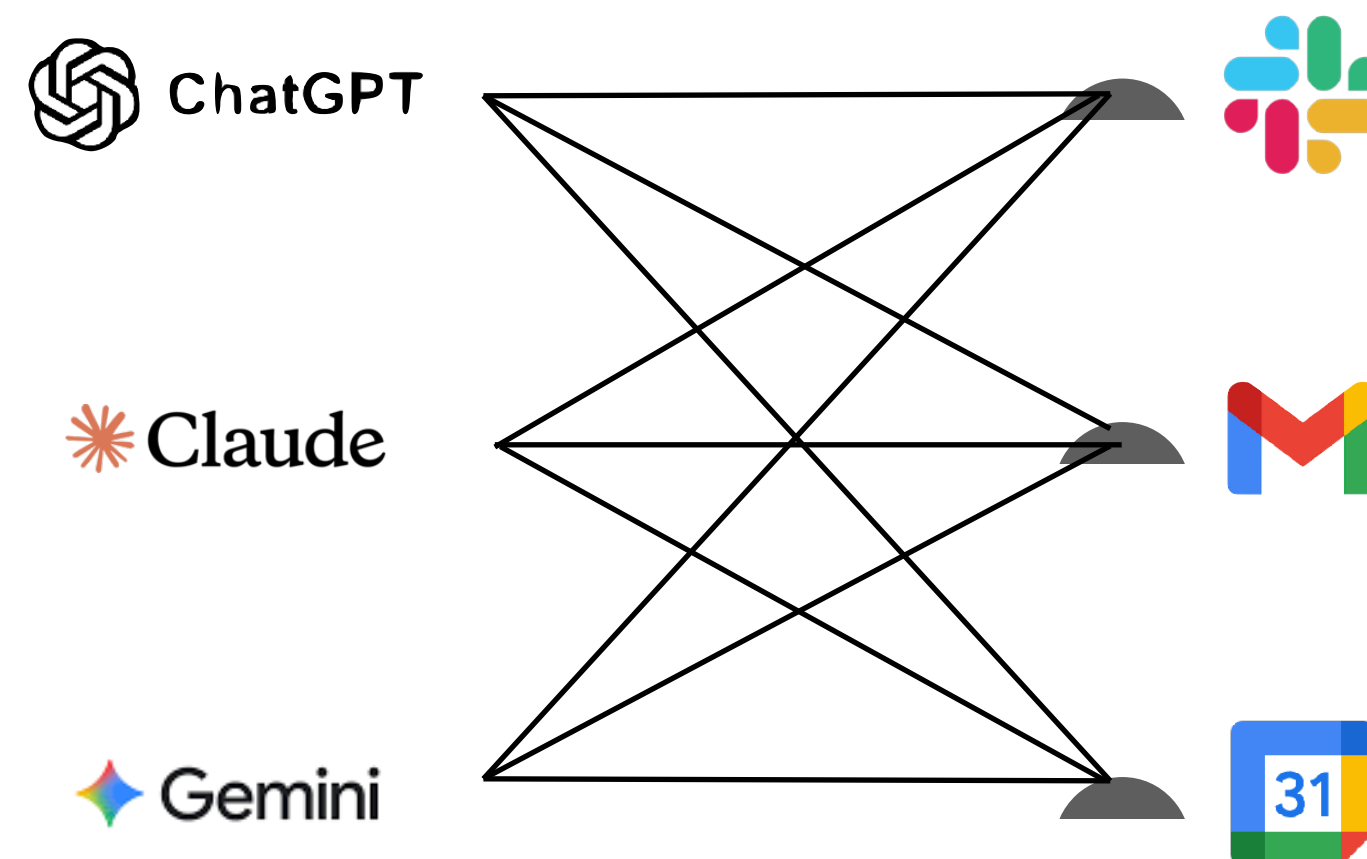
Gemini



MCPサーバ

疑問

- 実はユーザ側からみると、MCPサーバへの接続手順はLLMによって違う
 - ChatGPTは非対応
 - Claude codeは自動検出
 - Gemini CLIはsettings.jsonに書く
- すなわち、ユーザ側から見ると、そんなに面倒ごとは減っていない😓



しかしながら将来的には

- どのLLMを使っても「Gmailにアクセスして」「Slackの最新スレッド読んで」と言えばすぐ動く
- ユーザーが認証を一度行えば、他のAIでも自動連携
- LLM間の乗り換えがスムーズに（ChatGPT→Claudeでも同連携を維持）
→ みたいな展望があり、**MCPの本気はむしろこれから。**

